

咲む

全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画

『咲む』上映会ニュース 2021年9月1日 No.13 発行：全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画上映推進委員会

奈良県の上映会報告

<6月26日奈良市上映会>

6月26日（土）、奈良県聴覚障害者協会・奈良市聴覚障害者協会主催による上映会が、奈良公園バスターミナル レクチャーホールで開催され、138名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

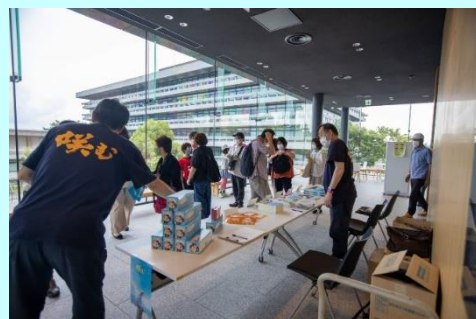
<実行委員会より>

地域協会と奈良市の手話サークル3つで実行委員会を立ち上げ、一体感を持って準備を進めて無事に上映会を成功させることができ良かったです。

新型コロナウイルスの状況次第では開催できないかもと危ぶんでいましたが、施設側とも何度か連絡を取って対策案を提出し、当日の消毒作業の徹底などで問題なく開催できました。

参加者への電子アンケートでも「感動した」との声がいくつもありました。

ポスターやチラシを奈良市役所や公民館などに掲示、配置してもらい、ろう者で、奈良県出身でもある監督・脚本の早瀬憲太郎さんのことをもっとアピールしていきたいと思いました。



愛知県の上映会報告

<6月26日稲沢市上映会>

6月26日（土）、愛知県聴覚障害者協会主催による上映会が、稲沢市祖父江生涯学習センターで開催され、98名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

午前11時と午後3時半からと1日に2回上映を実施いたしました。

また、稲沢市長においては激務の中、観に来て頂きました。

加藤錠司郎稲沢市長よりご感想をいただきました。

聴覚障害者の主人公が父の故郷である過疎の村で協力隊員として、地域のため様々な困難を乗り越え働く物語で、そこには故郷の祖母と父の関係や障害者の出産にまつわる家族の断絶が根深い問題として横たわり、2時間飽きさせませんでした。



<ご来場者の感想>

- ・会場には知り合い同士の再会の場で盛り上がり、更に映画でも盛りあがった。特に感動する場面では、観客が涙ぐむ人も何人かいて、この映画で色々な人を繋いでくれると思った。
- ・仏壇の下から出てきた「父の手紙」、切っても切れない親子関係、絡み合った見えない糸を、一本一本解(ほど)こうとする瑞月、心の格闘、測り知れない複雑な痛みを抱かえた姿に感動し、涙腺があふれた、とても良かった。

<7月22日豊明市上映会>

7月22日（木・祝）、東尾張ブロック&班主催による上映会が、豊明市文化会館で開催され、99名（午前70名・午後28名）の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

コロナ対策をしっかりと、無事終わることができました。



中日新聞 地元版

<8月8日犬山市上映会>

8月8日（日）、西尾張ブロック主催による上映会が、犬山市民交流センターで開催され、146名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

受付時間を早めたため、並ぶこともなくスムーズでよかった。

参加者の1/3は手話を知らない方で、手話辞典がよく売れ、ミルクも売り切れて大盛況でした。



<ご来場者の感想>

- 映画のチケットの題字を見て、金沢翔子さんが書かれたのだと気づきました。彼女も障害を持っておられますが、個展を開かれるなどご活躍されていますね。
- 瑞月(みづき)の手話表現を覚えました。
- 大変わかりやすい映画で手話も読み取りやすくよかったと思います。障害者をもった親の気持ち、ろう者として受け入れられない中で奮闘する瑞月の生き方、村の人たちの思惑などどれも共感できました。緑豊かな自然のなかで主人公のさわやかな、時には聞こえないことで孤立しながら、必死に筆談でわかり合おうとするところ、父親との葛藤など感動しました。コロナのなか良い映画を見ることができて嬉しく思いました。
- 最後まで感動しました。素晴らしい人だと思いました。
- 初めて、日本の映画で字幕付きの映画を見ました。咲むを見て、まだまだ手話が世間には通用していないことを改めて感じました。でも、主人公の行動力はとてもすごいなあと感じました。間を開けてまた上映会があったらもう一度見たいなあと思いました。
- とても感動しました。本当に久々に良い映画で夫も、障害者が生きやすい社会でなければいけない、と話しながら帰路につきました。充実した1日になりました・感動しました。なんか……何て言ったらいいのかわかりません。ありがとうございました。
- 手話に関する活動をしていない一般のお客様が「感動しました、有り難うと言って目を真っ赤にされていました。

<7月3日清須市上映会>

7月3日（土）、愛知県聴覚障害者協会主催による上映会が、清須市カルチャ新川ホールで開催され、68名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

午前10時と午後1時半からと1日に2回上映を実施いたしました。ご来場者数はこのご時世、想像よりも下回りましたが、このコロナ禍でなかなか会えない中、素晴らしい映画が見れ、皆さんに会えて元気をもらったとコメントをいただき、また上映会を開催したいと思いました。

<ご来場者の感想>

- ・「咲む」は全ての人々にエールを送る、そんな映画でした。
- ・とても普遍的なテーマで描かれていて、共感し感動しました。
- ・主人公を通して、未来に向かって生きるエネルギーをもらいました。そして、共生できる社会を目指したいですね。
- ・主人公が困難に立ち向かいながらも、前向きに進む姿に感心しました。
- ・一人の思い、行動があんなに周りを動かす、素晴らしいです！
- ・彼女の思い、行動が周囲を変える一。ずーっと最後まで引き込まれてました。



<8月1日岡崎市上映会>

8月1日（日）、岡崎市聴覚障害福祉協会主催による上映会が、せきれいホールで開催され、154名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。午前10時からと、午後2時からと2回行いました。

コロナ感染症対策として、参加者へリストバンドの装着をし、スタッフのマスクには咲むシールを貼るなど工夫しました。また、早瀬監督を一目見ようと午前、午後合わせて150名を超える観客が集まりました。

上映会には国会議員、岡崎市中根やすひろ市長にもお越しいただきました。



<早瀬監督 舞台挨拶、トークショー>

お話の中で、早瀬監督が一番大切なことは脚本を作ることだったとお聞きしーから作り上げていく大変さに頭が下がる思いでした。しかも音楽の調整も今まできこえる人が担ってきたが、手話通訳を通して咲む映画はすべて早瀬監督がやったと聞き、すごいと思いました。きこえる人もきこえない人も、今まで生きてきた環境はさまざまですが、一つの作品を一緒に観ることにより、映画の中の人々の思いを共有できたことは非常に貴重な経験になりました。



<8月8日蒲都市上映会>

8月8日（日）、『咲む』東三河実行委員会主催による上映会が、蒲郡市民会館で開催されました。同日に県内で上映会が開催されましたが、79名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

<ご来場者の感想>

- ・田舎では障害のあることを恥とする面が昔だけではなく、今も残っているところはあります。この映画のように障害の有無に関係なく地域の一員として受け入れられ、自分らしく生き生きと生活できる社会になると良いなと思いました。
- ・主人公の笑顔、表情、素晴らしかった。親子関係のシーンが心にささりました。おばあちゃんとお父さんの過去からの感情、そして、長い間の疎遠。この映画は、見どころ満載です。
- ・主人公、瑞月ちゃんの「障害を乗り越えてはいない、ただ前へ進むだけ」の言葉に、障害の有無より、その人にしか出来ない事を見つけ挑戦していく事の大切さを感じました。また、一生懸命頑張っていく中で、周りの人も引きつけていく主人公の姿に感動し、元気をもらいました。
- ・きこえない人にとって困ることがこの映画にぎゅっと詰まっていた共感出来たところが多々ありました。このことをきこえる皆さんに知って貰えたのはすごく嬉しかったし、もっと沢山の人の見てもらいたいと思いました。私も主人公瑞月さんのようにどんな壁にぶつかっても、挫けず前を向いて歩いていくことを大切にしたいです。



広島県の上映会報告

<7月25日広島市上映会>

<7月25日広島市上映会>

7月25日（日）、広島市ろうあ協会主催による上映会が、広島市青少年センターホールで午前と午後で開催され、178名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。緊急事態宣言発令により、5月23日から延期の開催となりました。映画の中の「障害は乗り越えてないよ。前に進むだけ。」は心に響きました。



埼玉県の上映会報告

<7月22日狭山市上映会>

<7月22日狭山市上映会>

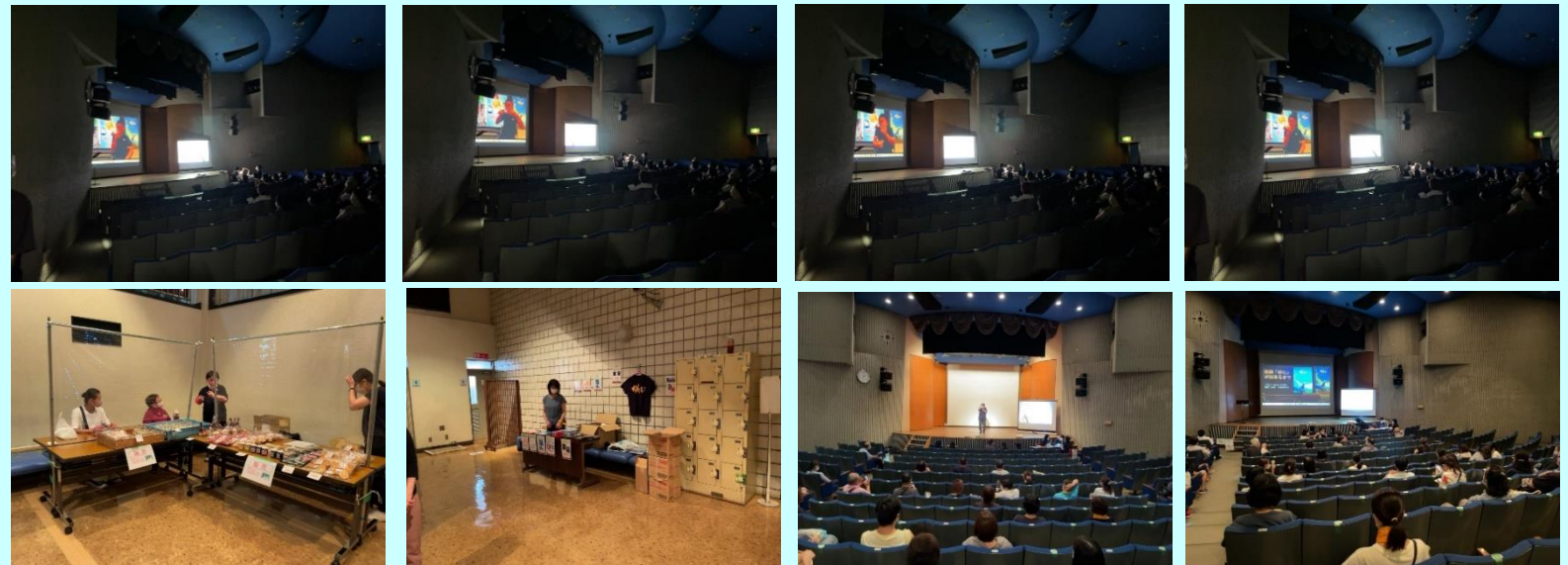
7月22日（木・祝）、『咲む』狭山上映実行委員会主催による上映会が、狭山市民交流センターコミュニティホールで開催され、131名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。1回の上映だったが、狭山市長をはじめ、埼玉県議員、行政、一般市民の皆さまなど想像以上にたくさんの方にお越しいただきました。



<7月31日さいたま市上映会>

7月31日（土）、さいたま市聴覚障害者協会主催による上映会が、市民会館おおみやで開催され、127名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

当初、2021年1月9日に開催予定だったが、緊急事態宣言の発出により、施設が使用できなくなり、中止となりました。今回は感染防止対策を練ったうえでの開催となりましたが、早瀬監督の特別講演の企画もあり、127名もの参加者に来ていただき、トラブルもなく無事に開催することができました。



新潟県の上映会報告

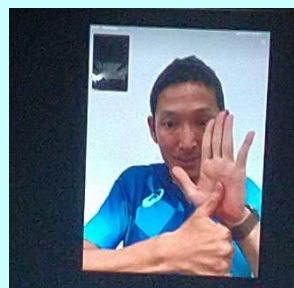
< 6月20日新発田市上映会 >

6月20日（日）、新潟県聴覚障害者協会主催による初めての上映会が、新発田市ボランティアセンターで開催され、96名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。午前10時、午後1時半、5時からの3回上映を行いました。3回に分けたことで、蜜を避け、安心してお楽しみいただきました。



< 7月25日新潟市上映会 >

7月25日（日）、NPO法人新潟市ろうあ協会協会主催による上映会が、新潟市総合福祉会館で開催され、77名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。新潟市内中心部での上映会開催であり、広範囲での呼びかけでは無かったものの多くの方がご来場くださいました。また、民放テレビ局での予告編を放送してもらい周知を図りました。



< 8月15日長岡市上映会 >

< 8月15日長岡市上映会 >

8月15日（日）、長岡市ろうあ協会主催による上映会が、長岡市シティホールプラザ「アオーレ長岡」で一日に2回開催され、85名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

お盆期間ということで集客も心配でしたが、会場も便のよい場所を選んでいただき準備も順調で良かったです。シアター形式のホールだったため、環境もとても良かったと思います。

来場された方からは、感動した、涙が出たなどご感想をいただきました。



< 8月22日三条市上映会 >

8月22日（日）、新潟県聴覚障害者協会主催による上映会が、三条東公民館で開催され、112名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。午前10時、午後1時半、5時からの3回上映しました。

地元三条市との共催となり、周知・広報の面で最大限の協力を得ることが出来ました。事前申込み数は目標に達しました。上映会では市長はじめ多数の市職員にも見てもらう事ができ、より理解を得るきっかけとなりました。



<< 早瀬監督舞台挨拶（リモート） >

<7月25日小山市上映会>

7月25日（日）、栃木県聴覚障害者協会傘下・小山市聴覚障害者協会主催による上映会が、桑市民交流センター「マルベリー館」で1日に2回開催され、78名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。
 コロナ禍の中、ワクチン接種会場による優先順位のため、本格的スクリーンのある広大な会場は取れませんでした。パーティションを取り払った別の広い会場で開催され、1回52名・2回26名 計78名の方々に映画「咲む」を鑑賞していただきました。
 7月下旬の猛暑注意報が出たのですが、感染防止対策を加えても滞りなく実施出来ました。



<ご来場者の感想>

- きこえない主人公とその家族の複雑な気持ちがよく表現されていた。
- 少しずつ努力していれば、いつかはわかってくれるもの。きこえる人も同じ。人間だから。とても心打たれました。
- 障害があっても、前向きに生きるって素晴らしい。
- 画面の中に音が無くなったシーンがあり、こういう様子なのかと改めて考えさせられた。
- 親子の確執 皆同じだなと思いました。
- 「強く生きる、前に進む」というセリフは本当に素敵です。
- 「誰も悪くないのに、気持ちがあられてくる」と泣いているところに、つられて泣いた。
- 続きをまた観たい。

<8月7日宇都宮市上映会>

8月7日（土）、宇都宮市聴覚障害者協会主催による上映会が、宇都宮市田原コミュニティプラザで開催され、75名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。
 写真パネル展も人気で、映画終了後、写真パネルを観ながら感想を話し合う様子が印象的でした。



<ご来場者の感想>

- 瑞月が企画した親睦会で、きこえる人同士で会話が盛り上がっていく中、音がフェードアウトする場面がとても印象に残っている。きこえる社会の中でろう者の孤独感疎外感を象徴するシーンに見えました
- 主人公が障害は乗り越えたのではない。そのまま前に歩くだけ。というシーンに感動した。
- もっと多くの人々にも観てほしい
- 障害があってもなんでもできるなんてすごいなと思いました。



<高島良宏氏トークショー>

上映後「咲む」の父親役の高島良宏氏がゲストとして来場し、トークショーを行いました。映画「咲む」撮影の裏側や大変だったことや早瀬監督、藤田さんなどの出演者の人柄などいろいろなお話を聞き、大盛況のうちに終わりました。

鳥取県の上映会報告

<7月30日鳥取市上映会>

7月30日（金）、鳥取県聴覚障害者協会主催による上映会が、15時からと18時からの2回、「鳥の劇場」で開催され、55名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

今回の会場は、鳥取駅から車で30分くらいの場所で、廃校になった幼稚園、小学校を改装され、鹿野町を拠点として活動されている「鳥の劇場」という劇団の協力を得て、会場をお借りし開催しました。

また、夏休みでもあるので、子どもさんにも見ていただけたらと、平日の昼と夜の2回上映、間にはミニ手話講座や「鳥の劇場」のタブレットを利用した、情報保障の取り組みなどの企画も取り入れました。

▼コロナ対策（飛沫防止シート、サーモグラフィー検温など）



▼理事長挨拶



▼ミニ手話講座



<ご来場者の感想>

- 色々な場面で心うたれるものがあり涙がとまらなかった
- どうやったらこんなに強く生きられるだろうかと自分に問いかけた
- 障がいのある人もない人も共生して暮らしていけたらいいと思った

▼鳥の劇場情報タイム



▼写真パネル



▼ホール（出版等販売ブース）



石川県の上映会報告

<7月11日河北都市上映会>

7月11日（日）、河北都市聴覚障害者協会主催による上映会が、かほく市宇ノ気生涯学習センターで開催され、79名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

午前10時20分と午後1時半からと1日に2回上映を実施いたしました。



<ご来場者の感想>

- 耳がきこえなくても村の人たちと助け合っていてすごいなと思いました。
- 前に向かって努力する姿が心に響きました。

長野県の上映会報告

<7月31日安曇野市上映会>

7月31日（土）、映画『咲む』安曇野地域上映会実行委員会主催による上映会が、安曇野市穂高会館で午前と午後1回ずつ開催され、73名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

チケット前売りをやめて予約制にし、アンケート回答方法含め、オンライン予約やFAX予約、グループLINEでの情報共有、チラシ印刷のネット注文など、今までにない方法で取り組みました。いずれも初めてで戸惑いもありましたが、インターネットを活用しているろう青年のアドバイス等により、うまくできました。上映会当日は、実行委員、要員みんなですべてチームワーク良く準備から片付けまで問題ありませんでした。

ソーシャルディスタンスを考慮して席や受付・販売の配置を工夫しました。担当者が、あらかじめ、会場の椅子やプロジェクター配置等のレイアウト図を作成したおかげで、当日の準備がスムーズにできました。



<ご来場者の感想>

- 心暖まる映画だった。いつも明るく前向きな主人公の笑顔がステキでした。駄目でなく、見守るやさしさが、本当に大事なんだと感じます。
- ハンデを越え前向きに生きる姿に感動した。障害者の努力で村を活性化させることが出来るのは何かを学んだ。生きる力、喜びも再現させることが出来たのは、人間としての心の在り方と痛感した。大変良い映画でした。

北海道の上映会報告

<7月17日札幌市上映会>

7月17日（土）、札幌聴覚障害者協会主催による上映会が、北海道立道民活動センターで開催され、226名の方々に『咲む』をお楽しみいただき、ご来場の皆さまよりご好評をいただきました。電子チケット、紙チケット両方の販売を行うことができてよかったです。



島根県の上映会報告

<6月20日出雲市上映会>

6月20日（日）、出雲市聴覚障害者協会『咲む』出雲市上映実行委員会主催による上映会が、斐川文化館で開催され、112名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。



<ご来場者の感想>

- ・原作も読んだが、映画のほうが何倍も感動しました。
- ・障がいにならずに懸命に取り組む姿、それにより周りの人が変わっていくところが印象的でした。
- ・聞こえない人だけでなく、いろいろな障がい者が出ておられることも良かった。
- ・感動した！昔の口話教育の厳しさを思い出した。最後、家族が仲良くなって良かった。

千葉県の上映会報告

<7月17日柏市上映会>

7月17日（日）、柏市聴覚障害者協会主催による上映会が、アミュゼ柏プラザホールで開催され、78名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

今回は7/12よりまん延防止等重点措置が入り、上映会当日、とても不安でしたが、観客数を少人数にしたことで、コロナ感染防止対策も避難対策も充分出来てよかったです。

観た方々からの感想を見ても、「聞こえない高校生を世間から隠さなくてはならなかった時代から、少しずつ周囲の意識が変わってきたことを嬉しく思う」「目と耳の両方が不自由な人のコミュニケーション手段を初めて見た」など、評判も上々でした。



大阪府の上映会報告

<7月31日東大阪市上映会>

7月31日（土）、東大阪市身体障害者福祉協会聴言部会主催による上映会が、東大阪市立男女参画センターイコーラムホールで開催され、188名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。

コロナ禍の中、手話サークルが休会状態で以前のようにサークル員をとおしてのよびかけが難しい中、東大阪市や教育委員会、医師会などいろいろな団体に後援名義を承認していただいたおかげで、宣伝することができました。市長にご挨拶に来ていただきました。全日本ろうあ連盟のコロナ対策マニュアルのおかげで、感染防止の対策をしつつ、スムーズに進めることができました。客席では泣いている声も聞こえたときこえるお客様からも教えていただきました。

▼野田市長



▼実行委員会



▼上映会の様子



<ご来場者の感想>

- ・聞こえない人だけでなく、いろいろな人が出て考えさせられた
- ・今までの映画とは違い、自然な演技が良かった

宮城県の上映会報告

<7月22日仙台市上映会>

7月22日（木・祝）、仙台市聴覚障害者協会主催による上映会が、仙台市福祉プラザ2階ふれあいホールで開催され、242名の方々に『咲む』をお楽しみいただきました。「咲む」上映会開催時の感染症対策ガイドラインのお陰で、スムーズに準備して対応できました。

映画についても参加者から共感、感動の声が多数寄せられ、障害者を取り巻く環境やおかれている状況等について、理解を深めていただくことができました。

▼チケットのもぎり



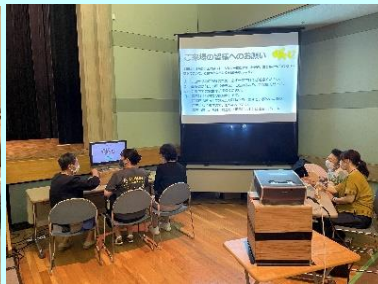
▼入場待ち



▼プログラムの販売



▼盲ろう情報保障の設置



▼実行委員とのチームワーク



<石黒昌道氏トークショー>



上映会と併せて本映画に出演した盲ろう者石黒昌道氏をお迎えしてのトークショーも行い、映画出演時のお気持ちや裏話など聞かせていただくこともでき、参加者も大変興味深く話を聞いておりました。

▼静かに鑑賞



<ご来場者の感想>

- ・「咲む」上映会を鑑賞し、とても感動しました。自分の経験と重なるところもあり、瑞月の前向きな姿には勇気をもらいました。私は弱視難聴で、上映会ではスクリーンが見えないため、モニターを準備していただき、見やすい状態で映画を楽しむことができました。実行委員のみなさま、ありがとうございました。多くの方にみていただきたい、素晴らしい作品でした。
- ・2人の障害を持つ子どもの母親です。映画での障害者家族、周囲の関係性は現実世界と同じに描かれていて、「映画を作ってくれてありがとう」という気持ちになりました。障害者福祉は地域に格差があり理解もばらつきがあります。障害のない人にも是非見てほしい映画です。
- ・全体にとっても流れのよい内容だったと思います。映画の中で特に印象に残ったのは、おばあさんが瑞月さんに本当のことを話した場面です。おばあさんの気持ちもそのときの瑞月さんの表情もよく描かれていたと思います。そして最後にお父さん(充さん)がおばあさんに会いに帰ってきたことに感動しました。障害のある人たちに対する関わりかたについても、より多くの人に観てほしいと思います。
- ・瑞月が高校生の時初めてあった赤ちゃんへ生まれてきてくれてありがとうと言葉を贈りその赤ちゃんが大きくなり、やがて村で生まれた赤ちゃんに向けて自分が言われた同じ言葉を贈る。こうやって人から人へ愛情が繋がって行くことが分かるシーンが印象に残りました。母の想い。父の想い。それぞれ愛し方は違うけど子供を思う気持ちは同じく強いと言う事が分かる、リュウコがニワトリの卵を自分で取るのを両親が見守るシーンも好きです。もちろん、最後のシーンの母との再会シーンも感動しました。あげたらキリがなくなってきました。
- ・『咲む』上映会について感動したシーンは親子なのに会いたくないっていうのに最後のシーンで息子さんの家族が出てきたシーンでした。
- ・仙台での「咲む」の上映をコロナ感染症対策の中観ることが出来ました。私事ですが私は後天性の身体障害があります。瑞月が「障害は乗り越えてないよ。前に進むだけ」とリュウ子に伝えた時、自分の心にも響くセリフに涙が溢れそうになりました。劇中だけではなくこの映画を観た方の心にも瑞月のポストカードが届いたのではと思います。今日は、色んな人へ「生まれてきてくれてありがとう」と思える日になりました。とても、良い映画をありがとうございました。
- ・村人達に認められるように努力を惜しまない前向きな瑞月の姿は素晴らしいと思いました。途中、村人(きこえる人)達が楽しく会話を始めた時、ろう者瑞月を誰も気かけず会話が盛り上がり、瑞月が孤独になって淋しい思いをしているシーンに心が痛みました。相手を思いやるちょっとした気配りを忘れてはいけないと思いました。
- ・主人公が孤独を感じて無音になっていくシーンと「生まれてきたんだから 前に進む」と家族に話すシーンが強く印象に残りました。沢山の人に観てほしい映画です。
- ・料理のシーンが印象に残りました。主人公の料理の下手なシーンが面白かったです。料理をコツコツ頑張って上手になっていくとともに、村での人間関係もうまくいくようになり、主人公の努力を感じました。主人公を通して、家族や村人、みんなの成長を感じる映画でした。

- ・印象に残ったシーンは母が、息子に対して後悔していると気持ちを吐き出すところでした。家族それぞれの気持ちがすれ違う所が切なくなりました。
- ・ろう者が社会の中の生きにくい現状と、その中で奮闘して行く姿、祖母と父の確執その要因など本当に考えさせられる内容でした。「どうやって障害を乗り越えたの?」との問いに「乗り越えて無いよ、前を向いて進んでいるだけ…」との会話も心に残りました。ろう者や障害者に理解ある社会になりますようにと願っております。
- ・印象に残ったところは・・・障害者が産まれたら大変だから産ませないとか、外に出さないと言うところです。私には計り知れないほど大変な思いをしている人達が居ることを感じました。社会全体で多様性を受け入れられる世の中になり、それらを教えられる人が増えて、お互いに認めあって、みんなが幸せな世界になると良いなぁと思いました。
- ・とても素敵な映画でした！涙なしには観れません！観れて良かったです！特に後半の蔵のなかで、瑞月さんが「悪い人はいない」と言って、みんなの想いを受け止めて、気持ちが溢れて涙を流してしまうシーンは、観ているこちらにも、涙が止まりませんでした！今度、石巻？でまた上映会があるようですので、今度は母を連れて、また観に行きたいと思っています！
- ・わかりやすく、心に届く映画でした。
- ・とっても素敵な映画でした。「障害があるからできない」なんてことは1つもないんだなぁと、瑞月さんを見ていて思いました。ついつい「障害がある」という理由でいろんな「壁がある」ように思いがちで、映画の中でもそうだったように思うのですが、瑞月さんの姿や言葉を聞いていて、障害があるとかないとかではなく、その「人」自身を見ていけるようになりたいなぁと思いました。それから社会的にも、就職が厳しいとか、家の外に心配で出せないとか、まだまだ社会的な壁はあるとも感じました。手話を学んでいる身として、そういった壁をなくしていけるように、自分になが出来るかも考えていきたいです。
- ・映画とトークショーはとても有意義な時間になりました。様々な人との関わりや心の動きを通して、障がいのある人もない人も共生する社会への一歩となる映画だなと思いました。また、聴こえる人間として無音になるシーンはとても考えさせられました。
- ・咲む、いっぱい泣きました。優生思想の悲しさを痛いくらい感じたのと、障害あるなしは関係ないんだなと感じました。私も誰かの役に立てる、自分のできる事をしていこうと思わせてくれる映画でした。一緒に参加した10歳の娘も、みらいちゃんが最後に出てきて良かった、私も頑張ろうと思ったと話しておりました。また、会場の感染対策で座席の間隔が空いていたせいか、ゆったりと鑑賞出来ました。
- ・「咲む」を見ていっぱい感動しましたが、特に主役の瑞月さんの笑顔がとても素敵でした。時々裏切られても、出会う人全てを信じるその愛情表現は、恐らく役作りではなく、その若い女優が自然に持っている人間性の表れでしょう。私は耳が聞こえますが、外国人として共感したのは、村人が皆再会して楽しんでるシーンですね。会話が聞こえない瑞月さんは、寂しくその場から離れます。離れる事が出来るといいですが、離れられない時の対応は、辛いでしょう。周りの言葉が聞こえない時、分からない時どうするか。疑問を投げかけるそういうところも描写するこの映画は共感できる場所が多かったです。
- ・「咲む」上映会お疲れさまでした。思った以上に素晴らしい作品でした！宮城県全域で上映会開かれるといいですね。
- ・福祉プラザのホールは映像が大きくて観るのが気持ち良かった！
- ・トークショーで裏話を聞けて良かったよ。石黒さんは役をやったことを生涯の中で忘れられない思い出になったみたいね。
- ・お母さんと一緒に観に来たので、特に、親子の会話は、涙が止まらなかった。家に帰っても、話題の続きで良かった。
- ・全体に瑞月の清々しい笑顔があふれていて良かったです。知り合いが「初めて盲ろう者を知り、触手話を見て感動した。」と話していました。多くの人に見て欲しいと素直に思いました。
- ・瑞月の祖母、八重はある事がきっかけで、ずっと自分を責め続け、一緒に生活する事になった孫で息子と同じろうあ者の瑞月を受け入れることできないでいる。後に自分が受け入れてもらえない理由を知った瑞月は八重と少しずつ心の距離を縮め八重は拒んでいた瑞月の筆談にこえた瞬間が一番印象的でした。人の心の葛藤を見た思いでした。また、若くて何事にもアクティブで明るい性格の瑞月は、小さな集落で祖母と生活しながら少しずつ人々の心を掴んで行く様子に心を動かされました。この映画は多くの一般の方々に見てもらい、障害理解、共生社会に繋がって欲しいと願っています。

< 『咲む』 写真パネル展示ご活用のごお願い >

『咲む』写真パネル43枚セット（タイトル1・キャスト12・映画ストーリーシーン16・メイキングシーン14）を上映会展示用に貸し出し中です。映画鑑賞前に物語を想像しながら、鑑賞後は『咲む』の余韻に浸りながら、楽しくご覧いただけます。送料は、発送時全日本ろうあ連盟負担、返送時依頼団体負担です。上映会実施日1か月前までにお申し込みください。



★『咲む』募金状況★ (8月30日入金済)

¥2,351,237円 (目標20,000,000円)

上映会会場での募金活動のご協力とご報告をお願いします！！
地域上映会募金活動報告（「上映会終了報告書」記載分）

月日	都道府県	開催地	金額
6月20日	島根県	出雲市	¥14,827
6月26日	奈良県	奈良市	¥31,450
6月26日	愛知県	稲沢市	¥8,875
7月3日	愛知県	清須市	¥4,484
7月4日	宮崎県	宮崎市	¥27,044
7月11日	石川県	かほく市	¥13,981
7月17日	北海道	札幌市	¥420
7月17日	千葉県	柏市	¥690
7月22日	宮城県	仙台市	¥37,235
7月22日	埼玉県	狭山市	¥26,667
7月22日	愛知県	豊明市	¥20,976
7月24日	静岡県	静岡市	¥16,360
7月25日	新潟県	新潟市	¥7,824

月日	都道府県	開催地	金額
7月25日	栃木県	小山市	¥6,300
7月25日	広島県	広島市	¥20,048
7月30日	鳥取県	鳥取市	¥1,000
7月31日	埼玉県	さいたま市	¥4,273
7月31日	大阪府	寝屋川市	¥31,450
7月31日	長野県	安曇野市	¥3,772
8月1日	愛知県	岡崎市	¥7,166
8月7日	栃木県	宇都宮市	¥683
8月8日	愛知県	犬山市	¥5,836
8月15日	愛知県	碧南市	¥16,650
8月15日	新潟県	長岡市	¥20,912
8月22日	新潟県	三条市	¥17,049
8月22日	愛知県	春日井市	¥24,763

(昭和33年7月17日第3種郵便物認可) 毎月25日発行

映画の鏡

「咲む」フラットな共生社会を展望
コミュニケーションの本質を示す

旧来の映画の直伝文句だ。『咲む』を乗り越えて頭張る女性の奮闘を描いた感動作。でも強調するのだろうか。しかし、その名がさういふ発想を否定して、これからの

フラットな共生社会の姿を描いているが、この「咲む」である。2014年に創刊周年を迎えた吉本あさひの連盟が記念映画として製作した作品。昨年夏に公開されて以来、コロナ禍で上映活動の苦勞をしながらも、全国各地での共感の輪が広がり、上映の取り組まはますます拡大して、新しい映像文化の創造運動として注目



採用も異なったが、それが地域おこし協力隊の社員であり、高年齢者だ。彼女が障がい者であることが、この映画の重要なポイントだ。彼女が障がい者であることが、この映画の重要なポイントだ。彼女が障がい者であることが、この映画の重要なポイントだ。

私たちの意識を少しずつ変え、見ている私たちがなを笑顔にしてくれる。この映画は、同連盟が90周年記念で初めて製作した映画『咲む』の90周年記念で、製作から、多様な性が求められる現代の人々の「意識」や「認識」の課題を、より深く切り込んでいる。

『咲む』×不二家コラボミルク
第2弾！！
残りわずかです！お申し込みはお早めに！



大好評『咲む』×不二家コラボミルクが残りわずかとなりました！ぜひお早めにご注文ください。よろしくお願いいたします！

◀ジャーナリスト会議 (JCJ)
月刊機関紙「ジャーナリスト」 (2021年6月25日付)